

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月1日

【評価実施概要】

事業所番号	872800065		
法人名	社会福祉法人 慈光学園		
事業所名	北向内荘		
所在地	坂東市生子1609-8 (電話) 0280-82-1155		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年4月18日	評価確定日	平成20年10月1日

【情報提供票より】(平成20年3月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木質系パネル 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年4月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1名	要介護2	0		
要介護3	1名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0		
年齢	平均 83.5 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	河村胃腸外科医院 ・ 小池歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの法人母体の管理者は、地域で永年にわたり障害児・者関係の福祉施設を運営しており、経験豊富な職員が人事交流を図りながら、利用者の介護等に努めている。
「気兼ねなく、第二の我が家」をモットーに全職員が各自の責任や役割のもと、利用者が居心地良く暮らせるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>意見や要望等を伝えやすいよう意見箱を玄関に設置した。 玄関の施錠については、チャイム・センサー等の設置を思索中であり、今後の利用者の安全確保に向けた取り組みを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービスの質を評価することにより、評価の意義を認識するとともに、結果を改善に活かしたり会議等で協議する体制ができている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、出された意見をサービス向上に活かしている。 管理者は市介護保険事業連絡協議会のサービス部会に積極的に参加し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に利用者の様子を伝えている。 和楽だよりや運営推進会議で、利用者の様子やホーム全体の様子を定期的に報告している。 全利用者の家族が運営推進会議の構成員であり、会議で意見を聞いたり意見箱に寄せられた苦情等は、この会議で対応等を検討し回答する取り決めがある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方々とは日頃より気軽に言葉を交わし、畑で採れた作物などを持って遊びに来てもらっている。 法人母体の行事などを一緒に行い、地域の方々を招待し交流するとともに、介護支援専門員による介護相談を行っている。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「気兼ねなく暮らせる、第二の我が家」を基本理念として、地域密着型独自の運営理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向け、朝の申し送り時には職員全員で唱和している。 ホームの見やすいところや申し送りノートにも理念を明示し、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々とは日頃より気軽に言葉を交わし、畑で採れた作物などを持って遊びに来てもらっている。 法人母体の行事などを一緒に行い、地域の方々を招待し交流するとともに、介護支援専門員による介護相談を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質を評価することにより、評価の意義を認識するとともに、結果を改善に活かしたり会議等で協議する体制ができている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、だされた意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市介護保険事業連絡協議会サービス部に積極的に参加し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の様子を伝えている。 和楽だよりや運営推進会議で、利用者の様子やホーム全体の様子を定期的に報告している。 行事ビデオを上映するほか、写真も送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全利用者の家族が運営推進会議の構成員であり、会議で意見を聞いたり意見箱に寄せられた苦情等は、この会議で対応等を検討し回答する取り決めがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の状態や生活の流れをスムーズに支援するため、職員の異動は最小限に抑えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格や職務経験、年数に応じて各種外部研修等に参加している。 受講した職員は研修内容をミーティングで報告し、全員が研修内容を共有できるよう取り組んでいる。 また、医師を迎えての勉強会や施設内の研修も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市介護保険事業連絡協議会の施設サービス部会に積極的に参加し、地域との交流や情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の意向を聞くとともに話し合い、利用者が不安なく利用できるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	24時間ともに生活しているなかで、利用者から学ぶことも多く、共感しながらお互いに支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族等の希望や意見を取り入れ、日々の生活の中で知り得た情報により、利用者の希望にそったケアができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画担当者が中心となり、利用者や家族から情報を聞くとともに、職員の気づいた意見をもとに、定期的なカンファレンスにより介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施計画を明示し、終了時の見直しはもとより状態の変化に応じて随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族が介護できない時の短期入所や急な体調不良時は、嘱託医の往診等柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそって主治医を決めている。 毎日嘱託医による往診がある。 急な病気の時も適切な医療が受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの取り組みについては、看護師や嘱託医と話し合い、職員全員で方針を共有している。	○	家族の意見を聞くとともに、ケア等のマニュアルを作成し、マニュアルをもとに継続した研修の実施が望まれる。 ターミナルケアマニュアルの作成を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し、一人ひとりに合わせた声かけ等の対応を行うとともに、記録を事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースやニーズに合わせ、より良い生活ができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	使い慣れた食器でおいしく食べられるよう配色や盛り付けの工夫をしている。 準備や片付け等は利用者一人ひとりの力量に合わせて手伝ってもらうとともに、職員も同じ食卓と一緒に食事し、見守りやサポートをさりげなくしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には利用者の希望を聞き、くつろいだ入浴ができるよう支援している。 入浴の機器や用具も準備している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に合った役割や楽しみごとに取り組みよう活躍の場面をつくり、利用者の意気を高める言葉掛けをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近隣の同法人運営の施設訪問や散歩をするとともに、少人数で外出する機会を多くしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が道路に面し車の往来もあるため、安全面を優先してやむを得ず鍵をかけている。	○	チャイムやセンサー等の設置などにより、利用者の自由な暮らしを支え、日中はなるべく玄関に鍵をかけないケアが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が中心になり、昼夜の避難訓練や救命救急を実施している。 地域の人々に運営推進会議等で協力を呼びかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー計算された食材で調理するとともに、一人ひとりの状態に合わせた摂取カロリーや水分摂取量を記録して、その人の状態や習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に利用者が作ったカレンダーや作品を飾り、季節感を取り入れて居心地良く過ごせるよう工夫している。 一人になったり、気のあった者同士で自由に過ごせる居場所を確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物や使い慣れた家具、生活用品、装飾品等を自由に持ち込み、安心して過ごせる場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。